

NPO 富里のホタル

NPO法人 NPO富里のホタル 編集委員会 発行 2013.10.15 第29号

●稲作体験学習

—詳しくは裏面の特集で！—



様々ないきさつを経て、富里第一小5年生を対象とした「稲作体験学習」を天神谷津で行い、約4俵のコンヒカリを収穫して、何とか無事終了となりました。私達のほとんどの者に実際の稲作経験が無く、大きな不安を持ってのスタートでした。そこで、地元立沢地区の農家の方々に、ご指導とご協力を仰いで…という事になり、お願いに伺ったところ快諾して頂き、とても心強い気持ちになりました。稲作の基礎から教えを受けたり、いろいろと意見交換する中で、「可能な範囲でひと昔前の稲作方法を、子供達に体験してもらおう」という方向性も定まって行きました。私達にとっては、大変な思いをした約半年間でしたが、地元の方々と共に、地元の子供達と米づくりを行うという経験は、いくつもの成果があったと考えています。

●第一小3年生の自然観察会

空模様が気になる6月12日(水)、恒例となった3年生による自然観察会が天神谷津で行われました。私達は観察ガイドとして、10名でお手伝いしました。前夜の雨でしっかりと濡れた草木には、カエルや虫たちがいつもより多く姿を現わし、子供達には楽しい観察会だったようです。

又、この日は「ケーブルネット 296」の取材がありました。インタビューの際には、子供達は緊張したり、笑顔を見せたりしながらも、カメラとマイクに向かって自分の気持ちをしっかりと伝えていました。



●ゲンジボタルの遺伝子解析

6月16日(日)、つくば市にある茗漢学園(中高一貫校)からお二人の教師とお二人の生徒が富里を訪問。その目的は、「ゲンジボタルの遺伝子を解析し、関東型と東北型の境界を明らかにするため」とのことでした。根木名川水系と高崎川水系のゲンジボタルを採取。地理的な理由から、富里は関東型では…と予想していたのですが、結果は？両水系とも東北型であることが判明しました。おそらく東北型の南限近くに位置していると思われます。「生物の安易な人為的移動は、遺伝子の攪乱を引き起こすので、防がなければ…」と懸念していました。

●富里小サマーキャンプの支援

7月13日(土)、富里小5・6年生のサマーキャンプが体育館で行われ、昨年に続きお手伝いをしました。「里山の生きものたち」と題したスライドで、クイズ形式で話を進めたところ、子供達が興味を示し全問正解の子供も何人かいて、会場が盛り上がりました。その後、虫かごと水槽に入った昆虫・水生生物の観察を行い、最後に館内を暗くしてヘイケボタルを観賞。きらめく光に大きな歓声が上がっていました。



●スイス人女子大生がホタル観賞 その感想は？

日吉倉の中國さん宅にホームステイしていたスイス人のお二人が、天神谷津でホタル観賞。「ホタルを見られたことは、日本滞在中の出来事の中でも、とても特別な経験のひとつです。ボランティアの方々の、その地を保全しようという献身的な姿に感銘を受けました」(ナディアさん:写真左から2人目)、「ホタルの光はとても幻想的でした。又、普段鳴き声は聞いていたけれど、実際には見たことのない虫(蟬)の姿を見られて良かったです」(サライナさん:左から3人目)。この日、運よく蟬の羽化を目撃し、その抜け殻を大事にスイスに持ち帰ったそうです。



●講演会「身近な生きものたち—現場からの報告—」

8/18(日)、「成田・里山を育てる会」主催の講演会が、成田市役所で開催されました。講師は、私達の理事である山崎卓さん。山崎さんは会社勤めの傍ら週末には主に天神谷津で生きもの調査をしています。又、小学校の自然観察会では、虫の先生として大人気です。講演では、希少種の現状や、昆虫の不思議な生態、さらに日本人が虫と関わって来た文化などについての興味深い話が続きました。最後は、「守りたいものは環境だけではなく、自分の心の中にある日本の原風景や人々の営み、交流」と結びました。子供達を含む100名以上の人が来場し、大変盛況でした。



●天神谷津を「窒素浄化」のモデルケースに・・・

8/22(木)、第5回「印旛沼流域窒素勉強会」が開催されました。天神谷津での現地見学会、その後、場所を移して、勉強会と懇親会という構成でした。参加者は千葉大学・茨城大学・東京理科大学の先生方や学生さん、県の機関やコンサルタント会社の人達に、私達会員を加えて30人程になりました。天神谷津の窒素浄化能力を、さまざまな側面から調査・研究し、印旛沼流域のモデルケースにしようという事になり、早速、この秋から具体的な動きが始まる予定です。私達の活動が、結果的には水質浄化にも役立っている事が、学術的なデータとして示されれば、それは大きな励みになるのではないかと期待しています。

●水生生物による水質調査

8月24日(土)、天神谷津の上流と中流、下流で水のきれいさを判定するため、指標生物を調査しました。その結果、水質階級I(きれいな水)と判定。データを千葉県環境研究センターへ送りました。写真は、流速や水温を測定している当会の調査員。



★天神谷津★
いのち
生命のにぎわい

ヤブミョウガ(藪茗荷)

真夏のむせかえるような暑さの中、天神谷津の散策路に足を踏み入れると、木々の涼しさに別世界を感じます。そんな中、さらに涼しさを感じさせてくれるのが、ヤブミョウガの白い花です。私たちが食べるミョウガ(ショウガ科)の仲間ではなく、植物学的には全く別種の、ツルクサ科の植物です。葉の形がミョウガによく似ているのが名前の由来ですが、葉の表面がざらつくので簡単に見分けられます。屋間でも薄暗いような林の中でよく見られ、富里市内には数千㎡にも及ぶ大群落を形成している場所もあります。涼やかで清楚な雰囲気を持つ白い花とともに、秋に瑠璃色に色づく美しい実も、この植物の大きな魅力です。是非観察してみてください。(文: 荘司宏明)



会員紹介

おかむらともえ
岡村智恵さん (写真右端 姉家族と共に)



千葉県佐原市の出身です。子供の頃から水田や自然に囲まれた環境で育ち、今でもそんな所が好きです。今年の6月、ホタル観賞会のガイドお手伝いの為、屋間に天神谷津の下見に来たのが入会のきっかけでした。その日は天気も良く、谷津田の木や草の青緑がとてもきれいで、たくさんのチョウやトンボを見ることが出来ました。また敷地内を流れる小川は澄んでいて、水源の水はとても冷たく、この谷津田の景色や雰囲気がとても気に入りました。それに子供の時に数匹見た記憶のあるホタルを沢山見られたことは大きな感動でした。最初はガイドのお手伝いだけのつもりでしたが、会員になることに決めました。動物や植物のことはあまり詳しくありませんが、出来るだけ時間を見つけて活動のお手伝いをしたいと思います。

会員募集

★ ホームページ NPO 富里のホタル へのアクセスお待ちしています!! ★

<http://www4.ocn.ne.jp/~okgo/>

NPO 富里のホタルは、中央公園や谷津田で、ホタルの発生を指標とした自然保護活動を行っています。

活動に関心のある方は、お気軽にお問い合わせ下さい。(年会費: 2000円)

【連絡先】NPO 法人 NPO 富里のホタル 理事長 草野孝江 ☎ 090-3499-9161

現在の会員数: 0165

事務局メールアドレス okamoton@themis.ocn.ne.jp

稲作特集

3/12 田おこし



▲今年から休耕する田んぼ三枚をお借りし、まずは春の田おこしから・・・

5/2 代かき



▲湧き水がゆっくりと田んぼを満たした後、いよいよ代かきが始まる

5/13 田植え

▼子供達35人を含む総勢60人。田んぼに足を取られながらも、賑やかに、懸命に田植え



6/7 稲の生育観察（1回目）



▼自分達が植えた稲の成長や田んぼの生き物を観察して、ノートに記録。

7/8 稲の生育観察（2回目）



7月下旬に咲いた稲の花



9/21 コンバインで脱穀



9/21 コンバインで脱穀



4/27、8/31 田んぼ塾



✓立沢地区の農家の皆さんから稲作の方法やおだ掛けについて学ぶ。
(立沢区公民館)

9/26 飯ごう炊飯



▲「小見川少年自然の家」で野外活動。自分達で作ったお米を、薪を使って飯ごうで炊き、カレーライスにして食べました。その感想は、「チョーおいしい！」

黄金色に実り、頭を垂れる稲穂



9/12 稲刈り・おだ掛け



▼鎌を手に、大人の指導を受けながら稲刈りに挑戦

9/19 昔の農機具を体験

市文化資源活用室の職員のご協力により、文化財の大切さや歴史、農機具の仕組みを学び、子供達全員が体験した。



唐箕(とうみ)



足踏み式脱穀機



▲一週間ほど天日干し



▲農家の人に教わりながら、稲を束ねたり、おだ掛けをして、米作りの大変さを実感